

札幌・ポートランド姉妹都市提携60周年を迎えて

札幌市長 秋元 克広



2019年、札幌市とポートランド市は姉妹都市提携60周年を迎えました。この姉妹都市交流は、両市にとって最も古い関係であるのみならず、草の根の活動により様々な分野の交流が充実する『姉妹都市交流のモデル』として高い評価を受けている、素晴らしい交流です。

6月には、姉妹都市提携60周年を記念した訪問団を結成し、ポートランドを訪問しました。訪問中に、北海道大学のポートランドオフィス開所や北海道日米協会とオレゴン米日協会による姉妹協会再調印、札幌とポートランドの若手起業家交流など、様々な分野の様々な年代が活発に交流に取り組んだことは、今後の姉妹都市交流の充実に弾みをつけることでしょう。他にも、平和の梵鐘の移設式を兼ねた60周年記念式典、ポートランド日本庭園で行われたアイヌ民族の伝統芸術を取り上げた展示会も開催され、先住民への感謝の想いと60年の歴史の重み、将来への展望を感じることができる素晴らしいイベントでした。

10月には、ウィーラー市長をはじめとする訪問団を札幌にお迎えし、改修を行ったベンソンの水飲み、今回寄贈を受けた平和の燈籠、雨水浸透型花壇など、ポートランド所縁の場所を見学いただきました。地震対策先進国であり、大きな震災を経験した札幌から学びたいというご要望に応え、札幌都心の防災対応施設の視察なども行いました。この滞在中には、札幌とポートランドの高校生同士の交流を支える協定が締結され、未来の姉妹都市交流を担う若者を育む重要な一歩となりました。

また、市民による60周年を記念する事業も多数生まれました。戦前にポートランドで発行されていた日本語新聞の現代語訳プロジェクトでは、両市のボランティアが多数参加し交流を深めました。また、ポートランドの特徴あるカルチャーの一つであるクラフトビールが繋ぐ交流として、札幌の醸造家がポートランドの醸造所を訪問して醸造した記念ビールや、両市の市民が企画し、協定書に署名した11月17日に両市をオンラインでつないで行った乾杯パーティなど、草の根の交流を象徴する取組やイベントが多数、行われました。

60年前に姉妹都市提携を結んだ札幌市とポートランド市は、その長きにわたる姉妹都市交流の中で、それぞれの市民が、お互いの文化や優位性を知り、学び、実践することで、それぞれのまちの魅力を高めてきました。先人のこれらの功績に感謝の念を持ち、この深い絆を礎とし、これからも皆で一緒に、より一層輝く姉妹都市交流を続けていきましょう。

60周年に寄せて

ポートランド市長 テッド・ウィーラー



2019年の6月に秋元市長と札幌の60周年訪問団をポートランドにお迎えできたことは、私にとって最大の喜びでした。60周年記念式典の一環として、10月に札幌の魅力に直接触れる機会にも恵まれました。どちらの機会でも、豊かな歴史と文化、革新的なサステナビリティの実践、そして私たちの2つの都市とコミュニティの真のつながりに圧倒されました。札幌は本当に特別な街です。

60年前、第二次世界大戦からわずか14年後であった当時は、今とは大きく異なる時代でしたが、私たちの都市は平和を育み、数十年後に私たちを結びつけることとなる人と人のつながりを築く必要性を認識していました。このような友好関係から、私たちの都市は、文化的にも経済的にも強い国際的な結びつきを持ち続けています。過去60年に

わたり、学生、教師、芸術家、アスリート、政府関係者、専門家の交流、その他の多くの人脈を通じた訪問団の訪問を通じて、両市の市民の間で何千もの個人的な交流が行われ、その絆はさらに深まってきました。

2018年、ポートランドではこの種のサミットとしては初となる「第1回民族サミット」が開催されました。長い時間が経過してしまいましたが、多民族政府を認識し、協力するための活動を誇りに思っています。これと同じ精神で、ポートランド日本庭園では、北海道と太平洋岸北西部の先住民族の芸術性に光を当てるアイヌとネイティブアメリカンの木彫りの美術展が開催されました。アイヌの人々は、太平洋岸北西部のネイティブアメリカンと同様に、両国の歴史の中で共通している部分があり、太平洋が障壁ではなく、両国の架け橋となっていることを感じさせてくれます。過去、現在、未来を認識することで、私たちは何世代にもわたってこの理解を共有することができ、このような交流をさらに60年間続けていくことができるのです。

札幌ポートルンド 姉妹都市提携60周年を迎えて

札幌姉妹都市協会
会長 福迫 尚一郎

札幌市とポートルンド市は、1959年の姉妹都市提携から、市、団体、市民など、様々な形で交流を続け、今年60周年を迎えました。市民訪問団の団長として6月にポートルンドを訪れた際には、心のこもったおもてなしを受け、素晴らしい思い出となりました。また10月には、ポートルンドから親善訪問団を札幌にお迎えし、ともに記念すべき節目の年を祝うことができました。

札幌とポートルンドは、この60年間、色々な分野の交流を通じて、互いに学びあってきました。札幌は、ポートルンドの優れたまちづくりや環境意識を学ぶだけでなく、“市民同士の草の根交流”を通じて、ボランティア活動が盛んなポートルンドから、その先進事例なども学んでまいりました。

集大成ともいえる「央州日報プロジェクト」では、20世紀初頭のポートルンドで発行されていた日本語新聞「央州日報」の207ページもの記事を、両市の市民ボランティアが協力して現代の英語に翻訳しました。私も、市民ボランティアのひとりとして、この歴史的プロジェクトに参加し、姉妹都市交流の新たな形を見ることができました。

60周年は、暦が一巡する「還暦」です。両市の友情がここまで長く続いたことは、60年前に姉妹都市提携を実現させた方々やこれまで交流をつないでこられた皆様のお力によるものです。この素晴らしい交流が、今後もさらに続いていくことを祈念するとともに、引き続き、姉妹都市交流へのご理解とご協力をお願いいたします。

60周年：平和の鐘を鳴らせ

ポートルンド・札幌姉妹都市協会
前会長 マイケル・W・ベーコン

昨年は、札幌とポートルンドの両市民が、過去を振り返り、現在を祝い、次の60年とその先の永続的な友好関係について考えるために、様々な形で交流し、集う素晴らしい機会となりました。太平洋の両側にいる多くの友人やパートナーと協力して、この喜ばしい出来事を祝福する役割を担えたことは、謙虚な気持ちになるとともに、光栄なことでした。

30年以上前、ポートルンド市は素晴らしい贈り物を受け取りました。札幌市が、姉妹都市提携30周年を記念して、美しい梵鐘を寄贈してくださったのです。第二次世界大戦後にアイゼンハワー大統領が提唱した姉妹都市構想の精神の下、この贈り物は友情と平和を象徴するものとなり、心配事や祝事に際して市民が鐘を鳴らしてきました。その後、この鐘は「札幌平和の鐘」として知られるようになりました。2020年6月には、札幌から秋元市長と60周年記念訪問団がお越しになり、ポートルンドのウィーラー市長や市民とともに、この二つの素晴らしい都市の友情と平和の大切さを祝いました。

私たちは鐘を鳴らしました。

昨年、私たちはもう一つの贈り物をいただきました。オレゴンコンベンションセンターの工事のため、札幌平和の鐘をセンターの南東の角に移動することになったのですが、この新たな設置場所は、すべての人が過去を再認識し、60周年という今を祝い、活気に満ちた革新的な私たちの都市のすべての人々が共有すべきこの友情の未来、そしてその友情に対する新たな誓いを思い描く機会を与えてくれました。札幌とポートルンドの先住民の代表者も、格言と歌と踊りで式典に参加しました。

私たちは鐘を鳴らしました。

未来に向かうにあたり、ポートルンド・札幌姉妹都市協会の使命は、ポートルンドと札幌の人々の交流を通じて、友好と相互理解を促進し、より平和的で持続可能な世界の基盤を築くことにあります。そのためにも、札幌とポートルンドの過去・現在・未来のすべての人々を繋ぎ続けていきたいと考えています。

私たちは再び鐘を鳴らします。

全ての人に平和と善意を

札幌・ポートランド 友情の花を咲かせ続けよう

在札幌米国総領事館
総領事 アンドリュー・リー

昨年、日米で最も長い姉妹都市関係の一つである札幌・ポートランド姉妹都市提携 60 周年を秋元、ウィーラー両市長、そして両市の市民グループの方々と一緒にお祝いしました。秋元市長とロイヤルロザリアンが記念のバラの苗木の鉢にスコップを入れ、会場の全員が祝福するその様子は、7,000 キロ離れている両市の市民がまるで一つの大きな家族となったようでした。

どれだけ地理的に離れていても、ふれあう機会があれば、お互いにいかに共通点が多いかがわかります。だからこそ、姉妹都市関係は外交にとって不可欠な要素なのです。札幌市とポートランド市の場合は、開拓の歴史や周囲の自然環境を大切に作る姿勢などの共通点がいわば種となり、友情が芽生えました。そして 60 年に渡る相互訪問、異文化イベント、学生の交流がこの友情を育んできました。今日、両市は環境に配慮した地域づくりや独特の文化、起業家精神といった都市文化の花を咲かせ、それぞれの国で最も住みたいまちとして知られるようになりました。

60 年の交流という素晴らしい功績は、今後も続いていくでしょう。以前、私はポートランド訪問を終えたばかりの札幌市立大学の学生さん達に会いました。彼らは滞在中、ポートランド市民に日本についての印象をインタビューし、帰国してから、その模様をアートビデオにまとめました。作品からは、アメリカ人達が純粋に日本での暮らしに感心を抱いていることが伺えます。そして同時に、この映像を撮った若者達が自らの経験にワクワクし、また海外に行こうという気持ちになっている様子が見受けられました。

この様な若い情熱と異文化への好奇心が、両市の姉妹都市関係をさらに力強く育んでいくでしょう。記念すべき 60 周年おめでとうございます。今後もさらに多くの国際間の友情が生まれることを願っております。

札幌・ポートランド姉妹都市提携 60 周年記念誌の発行に寄せて

在ポートランド領事事務所
前総領事 寺岡 敬

札幌・ポートランド姉妹都市提携 60 周年を記念する記念誌が発行されますことを心よりお祝いを申し上げます。

私が在ポートランド領事事務所長・総領事を務めさせていただいた 2018 年 3 月から 2020 年 3 月の期間中、2019 年は姉妹都市提携 60 周年の年であり、秋元市長を始めとする札幌市の代表団のポートランド訪問、ウィーラー市長一行の訪日を始めてとして様々な交流事業が行われ、両市の関係は益々発展致しました。領事事務所の館員とともに、私も両市の協力関係の進展に微力ながらお手伝いできたことを大変嬉しく思っていると同時に、両市の市長を始めとする市役所関係者、経済、学術・教育、文化等の各界関係者、さらに多くの市民ボランティアの皆様の熱意とご努力に心より感謝する次第です。

札幌市とポートランド市の交流は、オレゴン州内で最も古くから交流が続けられている姉妹都市交流であるとともに、数多くの日本と米国の姉妹都市交流の中でも最も活発な交流の一つであります。現在の日米両国の緊密かつ友好的な関係は、長年に亘る市民同士の密接な交流がなければ実現できなかったものであり、将来に向けて札幌市とポートランド市のような姉妹都市関係が日米間で益々増え、両国の関係がより一層深まることを願ってやみません。

最後に、60 周年を契機として両市の姉妹都市交流が更なる発展を遂げられますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。